

留学生の待遇表現使用

—— 発話調査の結果から ——

岡 野 喜美子

キーワード

発話調査 スピーチスタイル 敬語使用 待遇意識 学習指導

はじめに

日本人の若者の待遇意識に大きな変化が見られるようになってきたと言われる。だれに対して敬語を使うかという問いに、尊敬できる人にしか使わないという答えもよく聞かれることである。このような傾向は敬語に対する否定的な見方、敬語の非使用、限定的使用やいわゆるタメ口の拡大使用などに顕著に現れてきている。これはスピーチスタイル（デス・マス体やダ体／くだけた^(注1)話体）の選択にも明らかに影響を与えていると見られる。

外国人日本語学習者の場合はどうであろうか。筆者の経験では、最近になって外国人日本語学習者の待遇意識が薄くなってきたということはないように思う。むしろ、昔の学生の方が、日本企業に就職することなどが念頭になかっただけに、敬語への関心は薄く、敬語を勉強する必要はないと考える学生が多かった。現今の留学生たちは日本企業への就職やビジネス日本語への関心、アルバイトやインターンシップの面接の必要などから、敬語および敬語学習の重要性はかなり意識しており、敬語学習への意欲も高いと言えよう。しかし、一方で、最近は教科書的でない自然な会話への志向とそれに応える「くだけた会話」の、教材への採用、映画やドラマ、マンガの教材化などによって、学生たちのくだけた会話への接近もより強くなってきた。このことにより、中級、上級はもちろん、初級、初中級であっても広義の待遇表現——敬意を表す対象となる相手から友達ことばを使っていい相手まで、さまざまな人間関係を適切に

とらえ、それに応じて言語的に待遇する表現——が使い分けられる能力が求められるようになってきている。

日本語学習者たちは、実際にどのような待遇意識を持ち、どのように待遇表現を使っているのだろうか。本稿では、国際部の留学生を対象に行った面談調査の結果からわかったことを考察、分析する。そして、それをいずれは待遇表現教育および待遇意識を高める教育に生かしていく糧としたい。

1 面談調査の実施

1) 面談調査の設定と目的

1999年6月、筆者は来日して9か月の留学生で初中級から中級レベルの学生23名に面談を行い、それを録音した。筆者と学生は初対面である。面談は筆者の研究室で行った。学生は明らかに相手が大学の年配の教員であり、その教員の研究室で面談が行われたことを理解していた。いわゆる敬意表現の使われる対象として「目上の初対面の相手」として認識しているはずであった。しかし、学生は何のための面談であるかは知らされていなかった。知ったうえで面談を行うと、意識がその方向に向かい、待遇表現使用の実態とはズレるおそれがあるため、面談の趣旨は知らせなかった。面談は、最初の10分間は学生が筆者に質問をし、あとの20分間は筆者が学生に質問をするという設定にした。

その面談の趣旨、目的は、「初対面の年配の大学教師に研究室で会って話をする」という条件のもとで

- a) どのくらいデス・マス体が使われ、どのくらいダ体（くだけた話体）が使われるか
- b) どういう尊敬語、謙譲語が使われるのか（使われないのか）
- c) どのくらい面談の相手に配慮した言語行為がとれるのか、丁寧さをどう保とうとするのか（しないのか）
- d) 学生のバックグラウンド（学習歴、環境、母語など）と敬語の使用、スピーチレベルの選択はどのくらい関わりがあるのか

などを調査し、考察、分析するというものであった。

調査をするにあたっては、次のようなことを想定した。

- a) については、前に述べた面談の設定上、デス・マス体で話されるのが当

然であるという期待があったが、日ごろの学生たちの話体の選択に関する傾向から、くだけた話体になることも予想していた。

b) は、最初の10分間は筆者に対してインタビューをして質問してほしいという課題を出し、尊敬語が出てくることを期待した。あとの20分間の面談では、逆に筆者が主に学生に質問をしたので謙譲語が出てくる可能性はあるものの、謙譲語を使う必然性は少ないと思っていた。

c) については、「聞き手ないしは話題の人物に対する配慮、気配りから来る丁寧表現などであり、また、会話のやりとりの潤滑油となるもの^(注2)」という広義の待遇表現の使用が観測されることを予想した。

d) については、国際部の場合、留学生のバックグラウンドはさまざまであり、それがどの程度待遇意識、敬語使用、スピーチスタイルの選択に関わっているのか関心があったが、データの数から推測の域を出ないであろうと思っていた。

学生たちは、これらの趣旨、筆者の思惑を知らずに面談に臨んだことになる。次項ではAからFまでの学生6名の発話例を取り上げ、具体的に見てみる。採録、引用した発話は、待遇上、特に取り上げたいと思った特色を持つもの——適切な例も不適切な例も——であるが、特殊な例とは経験上からも思われなかった。

2 学生の発話例とその考察

1) 学生 A の場合

中級。イタリア人。男性。母語イタリア語。日本語学習歴1年9か月。ホームステイ。

◎それは何について話してよろしいですか。

何を教えていらっしゃるんですか。(「～ていらっしゃるんですか」6例)

この研究は今年始めましたか。

そうですね。J11もあまり変わらないかな。

先生もいいですし、挑戦的です、非常に。

わたし、日本に来てから、あんまり聞き取れなかったんですよ。

あと一か月しかないですね、残念ながら。

わたし、政治学と日本語を勉強しているから、来年は日本語はあまりやりません。

ある程度わかるんだけど、話せません。語彙は知らない、わからない。

◎ヨーロッパのことは、ご存じのように、全部ロマンスランゲッジだから、…。
パリはいかがですか。

LSE, ご存じですか。

日本は奨学金いただいたら…。

わたし、政治学を勉強しているんだから、国際政治とか勉強したいんだけど、なかなかいい大学はわかりません。

先生が聞いたのはわたしに興味あることだったから、もうちょっと話せたんですけど。

いえ、こちらこそありがとうございました。

いただきます。すみません。

【特色】

- ・かなり頻繁に自然に尊敬語が出てくる。謙譲語は1例。「いかが」「よろしい」使用。
- ・文末はきれいにデス・マス体を使い、話す相手への敬意を保っている。唯一、丁寧さが足りなくなるのは「けど」や「から」の前にダ体が多いこと。「ので」の使用なし。
- ・「ね」「よ」「～んです」などをごく自然に使うので、対話しているという感じが強く、会話がなめらかに流れる。
- ・倒置、「～けど。」の使用など巧み。
- ・「はあ」「はい」「へえ」「うーん」「いや」「あ、そうですか」「そうですね」など、あいづち、返答が豊富で自然。
- ・学習歴の短さの割には非常に話し慣れている。

2) 学生 B の場合

中級。日系二世（アメリカ人）。女性。母語英語（日本語も聞いて育つ）。日本語学習歴大学で2年、子供の時日本語学校で12年（週1回）。寮。

◎先生はきょうどんな研究をしてるん、してらっしゃるんですか。

人によって違う、違いますね。

先生はここで早稲田で国際部で教えてらっしゃるんですか、今。（「～ていらっしゃる」4例）

やっぱりJ2を教える時には、英語をたくさん使いますか。

先生、それは難しいんだよ、とか言われて。

たくさんテープがありますね。で、毎日人の会話とか聞いてるんですか、テープレコーダー使って。

で、(先生は)本を書くんですか。

だから、仕事に入ってどうなっちゃうのかなあ、思ったりして。

ことばも変わってくる、きますし、難しいと思います。

たまたまお父様があつちにいらっしゃったら、くださいって、まあ。(敬語の乱用)

◎アメリカ国籍になっちゃうのかしら。

(先生は) 行ったことありますか。

(先生は) ロサンジェルスに何回行ったこと、いら(した)、行ったことあるんですか。

12月で卒業なんですよ、できるんですけど、遊びたいから、わかんないわ。

どっかほかの国に留学しようかな、思ったり。

やっぱり使わなければ忘れてしまう、忘れてしまいます。

彼女、そこに住んでいらっしゃる、住んでいるんですけど、…。

でも、個人的には強くなったと思うのね、こういう経験をして。

やだなあ、って思って。

【特色】

- ・ 尊敬語を少し使う。2回尊敬語を必要としないところに使用し修正する。
謙譲語はなし。
- ・ ほとんどデス・マス体で話すが、たまにくだけた文末(「かな」「かしら」「わ」「のね」1例ずつ)になって、待遇的にくずす。
- ・ スピーチレベルや敬語の修正をときどき行う。
- ・ 言いさしや倒置が非常に多い。「～とか。」「～とか言って。」「～たり。」「～たりして。」のような文末の終わり方が多く現れるので、くだけた感じがする。
- ・ 「～ちゃう」「やっぱり」を多用。
- ・ 終助詞の入った、口真似的な直接引用が多いので、全体にくだけた幼い感じがする。敬語使用(修正、乱用)を見ると、待遇はかなり意識している。

3) 学生 C の場合

中級。中国人(香港)。女性。母語中国語(広東語)。日本語学習歴1年9か月。日本人とアパートに住む。

◎早稲田大学ではどのくらい働いていますか。

岡野さんの趣味は？

スケッチング。今は忙しいですから，…前は鉛筆でかいたけど，今はもう。

今どうしてそのタイプのインタビューをしているんですか。

前ぜんぜん話さなかった，9月。1年間習ったけど，話さない。

ご家族は何人ですか。

どういうふうに違う？

◎大変だった，1年間。

楽と思うけど，うまくならないですから，…いつも日本語を練習する。

ですから，同じくらいかな。…楽かどうか難しい。

みんなだいたいJ10にいる。今は友達と一緒に暮らすですけど，前は寮に住んでいた。

そうですけど，今ね，彼女，アルバイトをしているですから，…話すの時間は少ない。ちょっとだけ。夜。

ニュースは多分半分くらいかな。

今後悔する。…今前に比べると彼の日本語はすごく上手。今すごく後悔する。

あまり上手じゃない人もいる。ですから，…。

中国人ですから，みんなそんなに長い時間かからないで，中国語できる。

イギリスで一番きらいなのは階級制度。これはとてもきらい，わたし。

【特色】

- ・尊敬語の使用は「ご家族」のみ。謙譲語はなし。
- ・筆者に対する質問は1例を除いてデス・マス体だったが，質問以外では，デス・マス体よりダ体の発話のほうが多い。
- ・一文中にデス・マス体とダ体が混在する。（「～ですから，～る。」タイプ）
- ・文末が名詞で終わる文が多い。
- ・文末の動詞は多くが終止形，イ形容詞はほとんどダ体，ナ形容詞は語幹のみ。
- ・あいづちや返答はほとんど「うん」。「はい」をときどき使用。
- ・「ね」の使用1か所のみ。「よ」の使用なし。
- ・結果的にダ体風に話しているが，本人の意識としてはくだけた話し方，親しげな話し方をしているとは思っていないのではないかと（終助詞の使用ほぼゼロ）。中国系に多い文末の特色と思われる。面談の相手に対しての敬意を示す待遇表現をするほどの余裕がなく，レベルの割には日本語に慣れ

ていない様子が見てとれる。前置きや和らげ表現などの使用もない。

4) 学生 D の場合

中級。中国人（台湾）。男性。母語中国語。日本語学習歴 2 年 9 か月。日本語は 2 専攻のうちの 1 つ。ホームステイ。

◎どうぞよろしくお願いいたします。

いつも面接されてる。されるほう。面接することはない。まだ学生だから。
ないです。自分の専攻は一応ある。日本に来てからないです。

え、本、多いなあ。

この間、～先生のオフィ(ス)、研究室にうかがいたことあるんだから、すごく多い、
多いと思う、思いします。

で、先生は大学はどこでいらっしゃいました? (「～でいらっしゃる」2 例)

一応去年来る前にもう卒業したんだから、卒業してきて…ここに来たわけ。(「～わけ」2 例)

やり方ちょっと違うです。向こうの先生もそう言ったんだけど。

あ、そうか。

◎台湾の英語の教育は日本と同じ。中学校 1 年生から勉強始まる。

入ってませんです、入ってなかった。でも、いろいろ取ってます。

しゃべれるようになりました、なった。来る前はあまりしゃべれなかった。

やらされております。けっこう飲まされている。

最初はびっくりしたんだけど、最近はもう慣れてきた、慣れてきました。

コンピューター、やっております。(「～ております」3 例)

それ、ちょっときついなあって思って…思っています。

いえ、それ、だめ。

先生、ご存じますか。よく国際部に来るの先生。

漢字読めるだけど、書けなくなっちゃい、書けなくなってしまいました。

これ、サングラスです。サングラスでございます。

【特色】

- ・尊敬語 4 例、謙譲語 5 例（目上の第三者へのを含む）、うち「～ております」3 例。
- ・デス・マス体よりダ体が多い。「～でございます」1 例。
- ・一文中でのデス・マス体とダ体の混用が目立つ。
- ・スピーチスタイルの修正を頻繁に行う。ダ体からデス・マス体への修正が多い。
- ・中国人の特色か、文末の動詞は多くが終止形、イ形容詞はほとんどダ体、

ナ形容詞は語幹のみ。

- ・ あいづちと返答に「はい」を多用。「うん」は一度のみ。
- ・ 終助詞は「なあ」1例。「ね」「よ」はまったくなし。
- ・ かなり待遇意識が強いことが敬語の多用，スピーチスタイルの修正，「はい」の多用などに現れている。しかし，一方でダ体が非常に多く使われるため，全体としてはアンバランスな，あまり丁寧ではない印象を与える。学生Aと同じレベルであるが，学生Aよりは挨拶や決まり言葉などには慣れている。学習歴の長さの関係か。

5) 学生 E の場合

初中級。ノルウエー人。男性。母語ノルウエー語。日本語学習歴2年9か月。武術部。日本人との交友関係多い。

◎ (先生は) 趣味ありますか。

どこで生まれたんですか。

10分て書いてありますよね。それで，だれが…はい，ありがとう。

うん，そうと聞きます。

海外で旅行したこと，ありますか。

オレゴン大学は早稲田と関係あるでしょう？

～という寮に住んでた。今は引越したけど。

じゃあ，ほくから質問してもいい？

日本の武道のこと，よく知っていますか。

そうそう。だって，その人はあまり英語はできないんだから。ぜんぜんできない。

うん，そんな感じ。

◎ 関心あると思いますよ。でも，大きい大学だから，何でもある。

もう一度入院した。それはね，…。

ノルウエーで入院したことない。やったことないです。

その目的じゃなかったよ。

つらいよ，仕事は。…本当につらいと思います。かわいそう。

本当にそういうことね。

面白いよ。

用心棒って映画知っていますか。

いいえ，こちらこそ。面白かったんですよ。

【特色】

- ・ 尊敬語，謙譲語はまったくなし。

- ・初めはデス・マス体で、途中からダ体がだんだん多くなり、「面白いよ」のようなくだけた話体も終わりの方に5例現れた。
- ・文末のかなりの動詞が終止形、イ形容詞は多くがダ体、ナ形容詞は語幹のみ。
- ・言いさしや体言止めが多い。「～けど。」で文を終わることが多い。
- ・面談の終わりの方で、終助詞の「よ」がだんだん多くなる。
- ・「～でしょう?」「だって」を多用。
- ・「うん」「ああ」「はい」「はあ」などあいづち多用。
- ・感謝を「ありがとう。」で済ます(2回)。
- ・このレベルの学生にしては話し慣れていて、自然さを感じさせることがあるが、くだけた印象が強い。待遇意識はあまり強いと思えない。

6) 学生 F の場合

初中級. タイ人. 男性. 母語タイ語. 日本語学習歴12か月. ホームステイ. サークル2つに所属.

◎岡野先生でいらっしゃいますか.

今日本語の先生をしていますか.

いつから早稲田の日本語の先生をし始めましたか.

いつも留学生を教えてあげますか.

この研究室は先生の研究室でしょうね.

本, 全部読みましたか.

すみませんけど, この研究は何のためですか.

そうですね. それは問題ですねえ.

わたしも敬語とかあんまり話せないですけど. どうもすみません. 習ったばかりなんですけど.

あのう, ええと, ちょっと複雑な質問なんですけど, ええと, 今日本語のクラスは13までありますね. 先生たちは何Jとかどういうふうを選んでんだんですか.

～先生を知っていらっしゃいますか. ～先生は英語が上手ですよ.

今は大丈夫です. でも, まだまだですけど.

◎名前でもけっこう難しいかもしれない.

怠け者ですよ.

そんなに暇ではありませんけど, うーん, そうかなあ.

じつは, タイの文化は日本の文化と近い, うーんと, ちょっと, 何だっけ, 日本の文化に近いですから, 悪いことば, 使わないほうがいいという….

うーん、そうですねえ、丁寧語もあります。尊敬語とか王様のことは、それもありますけど、日本語の敬語みたいなことばとかそんなにないです。

とんでもないです。

じつは、何だっけ、マス、マスコミュニケーションを勉強したいですけど、…。

あ、失礼ですが、あの、先生はこの研究によって本を書きますか。

あ、どうもありがとうございました。はい、どうもありがとうございました。

あのう、次の研究があれば、いつでもわたしを呼んでください。

【特色】

- ・ 尊敬語は 2 例。謙譲語 1 例。
- ・ デス・マス体できちんと話す。「～けど」や「～から」の前もデス・マス体。
- ・ 「何だっけ」のようなくだけた表現を 2 度使うが、独話的で全体をくずす感じはない。
- ・ 「ね」を自然に使う。「よ」はやや多いが、イントネーションの関係からか、それほど押し付けがましくない。
- ・ あいづちに「はい」「ああ」「あ、そうですか」「そうですね（え）」を多用。
- ・ 「んです」「んですけど」を多用。
- ・ しばしば前置きを言う。
- ・ 「じつは」「あのう」「あ」「ちょっと」「あまり」をよく使う。
- ・ 謙遜した表現が自然に出てくる。
- ・ （更なる協力の）申し出を別れに際して述べたり、お礼を繰り返して丁寧に述べる。
- ・ 尊敬語の使用は少ないが、初中級レベルとは思えないストラテジーを使って話し相手への配慮をし続け、これがごく自然に行われている。学習歴は短いが、初級の教科書に取り上げられた待遇に関わるストラテジーや表現の完璧なまでのマスターと運用が見られる。本人が言うように母語文化も日本語の待遇表現の使用に影響しているのではないかと見受けられる。

3 スピーチスタイルと敬語に表れた特徴

まず、前項 2 で具体的に取り上げた 6 人の面談での発話をスピーチスタイルの選択、尊敬語・謙譲語の使用を中心に数値的に見てみる。

学生	レベル	スピーチスタイル		言いさし 不完全文, 体言止め (スピーチスタイル 100に対し)	尊敬語	謙譲語	その他の特徴
		デス・マス体	ダ体(うち, くだ けた話体)				
A	中級上	78.9%	21.1%	12.4%	8 例	2 例	
B	中級上	88.4%	11.6% (2.9%)	26.6%	4 例	0 例	尊敬語の乱用 2 例 スピーチレベルの 修正ときどき
C	中級中	33.3%	66.7%	28.0%	1 例	0 例	
D	中級中	36.4%	63.6%	20.8%	4 例	5 例	スピーチレベルの 修正頻繁
E	初中級	57.6%	42.4% (2.4%)	21.8%	0 例	0 例	
F	初中級	90.2%	9.8%	7.3%	2 例	1 例	

スピーチスタイルに関しては、デス・マス体で多く話した学習者（学生A, B, F）のうち、学生A, Fは「目上の初対面の相手」との面談という条件に適した待遇レベルを維持したが、学生Bはデス・マス体は数値的には多いものの、くだけた話体や「て」止めや「たり」止めが多く、折り目正しさを感じさせなかった。デス・マス体とともに使われるダ体が、1) 自然なスピーチレベル・シフトとして認められる範囲内のものであるのか、2) 待遇上の誤用、迷いなのか、3) 母語の干渉によるものなのか、などについては、今後更に詳しく分析する必要がある。が、少なくとも、1) については、待遇的に適切に話していたという印象のあった学習者（学生A, F）ではダ体使用の比率も低く、言いさしや体言止めも少ないことがわかる。日本人学生の同じ設定での面談と比較することでより有効なデータが得られるのではないかと思われるが、今回はできず、将来の課題としたい。2) については、学生BとEに終助詞（「ね」「よ」）のつく明らかにくだけた話体が現れた。日本人の場合には、こういうくだけた話体は現れないはずである。また、学生BとDではスピーチレベルの修正がたびたび行われ、ある意味で待遇をかなり意識していることが見てとれた。3) については、中国語を母語とする学習者（学生C, D）に顕著に現れた（デス・マス体よりダ体の方が多い）ことから、母語の干渉が考えられる。

次に尊敬語を見てみると、日本語レベルの低い学生には当然のように現れにくかった。尊敬語を使わなくてもいいところに使う例（乱用）と修正例は学生Bにのみ見られた。丁寧さの諸相の観点からすると、豊富なあいづち、前置き、和らげ表現、謙遜表現などを使って、尊敬語をほとんど使わなくてもかなりの丁寧さを感じさせた学習者（学生F）が目立った。謙讓語は学生Dにやや不自然に現れたほかは、ほとんど使われなかった。

以上のほかに、次のような点が特徴として挙げられる。

- 1) ダ体使用の比率が、「目上の初対面の相手との面談」としては、あるいはスピーチレベル・シフトというには高すぎると思われる例が数例見られた。
- 2) 「～ですけど、～る。」タイプのスピーチレベルの混用がかなり多く現れたが、これは日本語の母語話者の発話には見られないものと思われる。
- 3) 「いらっしゃる」「～ていらっしゃる」「～でいらっしゃる」を自然に使っている学生はそれなりにいたが、尊敬表現「お～になる」「～（ら）れる」が23名の面談相手から1例も出て来なかったことは特記に値する。また、「なさる／なさっている」は上級レベルの日系ハーフ（アメリカ）の女子学生の発話に4例、中級初期レベルの日系クォーター（アメリカ）の女子学生の発話に1例現れただけであった。
- 4) 筆者への呼びかけとして「岡野先生」と「岡野さん」が混ざる例が数名に見られた。
- 5) 理由や事情を述べるのに「～から」のみが使われ、「～ので／んで」が使われないのも特徴的であった。しかも、「～から」の前にダ体が来るため、丁寧さに欠ける場合が多く見られた。「～けど」「～し」についてもダ体が多く使われる傾向が見られた。ちなみに、23名のうちの、中級上レベルのアメリカ人男子学生は、尊敬語使用6例、謙讓語使用1例（「～ていただく」）のほかに、「（ん）でしょうか」「（です・ます）けれども」「（です・ます）が」「（です・ます）し」「（です・ます）から」などを使い、最も「目上の初対面の相手と話す」にふさわしい話し方をした。

4 終わりに

国際部の初中級あるいは中級の学習者は年齢的にも若く、友達関係でのくだけた話し方が次第に巧みになる一方で、目上の人と話したり日本語の面接（試験）を受けたりする機会には意外に恵まれない。実際、目上であるはずの日本語教師との会話も必ずしも折り目正しく行われるわけではない。将来あるかもしれない面接のためにも、まず、折り目正しい話し方、つまり、デス・マス体できちんと話せる能力を養う必要がある。これは、会話指導の中だけでなく、発表する、意見を述べる、説明をするなどといった教室活動の中でも指導できるものである。ついで、会話指導の中で、前置きや適切なあいづちや返答、和らげ表現、決まり言葉や適切な挨拶表現などを練習する必要がある。これらの使用が待遇上いかに重要かを教師も学生も再認識すべきである。最後に敬語であるが、初級および初級以降で学んだ敬語を運用力にもっていけるように場面設定をして繰り返し練習する。

以上のような練習の中で、教師は学生の会話練習や発話を極力録音してモニターし、フィードバックに利用する必要がある。その結果、個々の学生は自分の話し方の適否、長所も短所も明らかに知ることになる。本発話調査でも留学生に共通の傾向やある学生に特有の癖などがはっきりと現れ、授業中の会話練習や発話のモニタリングと個別的フィードバックの重要性は一層確認できたと思う。

注

- (1) 筆者は、発話の中のデス・マス体とダ体をスピーチスタイルとして扱い、いわゆる敬語とは別だてにしている。なお、本稿では、終助詞を含まないものをダ体、含むものをくだけた話体として区別した。
- (2) 参考文献2での「待遇にかかわる項目」の説明の一部。

【参考文献】

- 1 岡野喜美子（1998）「初級におけるスピーチスタイルの指導」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』11
- 2 岡野喜美子（1999）「初級および中、上級における待遇表現教育— Total Japanese を中心にして—」『講座日本語教育』35号，早稲田大学日本語研究教育センター